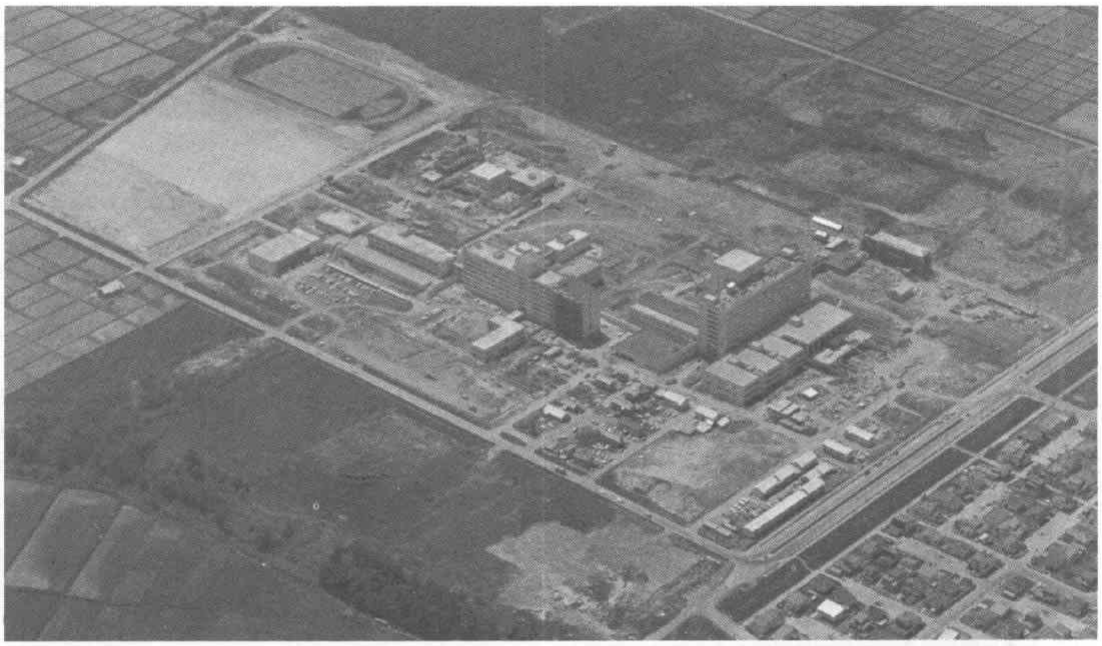
かぐらおか

（題字は山田守英学長）

第8号

昭和51年10月1日

編集　旭川医科大学
　　厚生補導委員会
発行　旭川医科大学教務部学生課



神楽岡上空から本学をのぞむ

内　　容

古くて新しい医の問題……美甘和哉……2
Y氏の場合……清水哲也……3
旭川医科大学談話会……4
規程の改正について……4
入学式挙行……5
新入生歓迎会……5
短　　信……5
納骨堂入魂式……5
激戦！本年度入学試験……5
研究室紹介……山内　卓……6
研究室印象記……山本　哲……6
躍動―第2回医大祭行わる……7
バレーボール部全道制覇
　第23回北海道地区大学体育大会……8
第19回東日本医科学生総合体育大会……9
東医体サッカー観戦記……山村剛康……9
バレーボール部レポート……浜崎　卓……10
石狩川くだり……町田光司……10
各種奨学金について……11
学生団体について……11
訃　　報……12
窓　　外……福山裕三……12

古くて新しい医の問題

美　甘　和　哉

旭川医大もすでに4回生を迎えて数ケ月が過ぎたが、私がこの大学で教えるようになって3年経ったわけである。3年も医学校で教えていながら、専門の医学教育とは直接関係がないのをよいことに、医学については自分の研究と係りのある生物学的側面だけに興味を抱いて来たようで恥しく思っている。そこで、もう少し、広く医学にかかわる問題について真面目に知っておかなければと感じ、取りあえず岩波文庫の「ヒポクラテス・古い医術について」、小川政恭訳を読んでみた。

紀元前5世紀から4世紀にかけて生きたヒポクラテスが、ニワトリの卵を産卵の翌日から毎日観察した発生学の草分けであったことは知っていたが、このヒポクラテス集典の抄訳を読んで、さすが医学の祖と呼ばれるに相応しい科学的精神と識見を具えた天才であったことをうかがい知って、深い興味をおぼえた。ヒポクラテス作品には、科学的な内容のものの他に、道徳的内容を含むものが多いと言うことであるが、当時すでに、医術の発達につれて起る問題として、倫理観乃至は道徳思想の重要性が強く認識されていたことがよく顕われている。

「医師の心得」、「技術について」、「誓い」などの章には、そのまま現代の医師の問題としても通じるところが多い。見方を変えれば、ギリシヤの古代社会においても、すでに医術の運用の仕方や医師のモラルには問題が多く、これらの記述から当時の医師と患者の関係乃至はトラブルを推測すると、現代社会のそれらと少しも本質的には変らないものであることに気付く。今や、世間では、医者と患者との間の不信感が拭い難いものになりつつあるように警告されているが、二千数百年を経るうちに段々増大され、こじれて来たのであろうか。勿論、医術が一部金持階級のものであった古代とすっかり大衆のものとなった現代とでは、問題の拡りに違いのあることは当然であろうし、増々重症となった背景には、人間性を置き去りにした機械論的文明の極端な発達による価値観の変革や、氾濫する情報に振り廻わされる現代人の自信と信頼の喪失があることは間違いないと思うが、問題の本質はやはり古代ギリシヤ社会のそれと変りないのではないか。

現在、医学そのものの進歩には全く目覚しいものがあるうえ、医師の数でも我が国ですでに12万余りとなり、70を越す医学校には毎年 7,000人以上の学生が入学すると言う状況である。医療そのものも、患者が享受出来る質、時間、回数など少し以前の状態とは比較にならない程改善されて来ている。しかし、これだけのことで患者の幸せが得られていないところに問題がある。今のトラブルの多くは、医師と患者の人間的触れあいの欠除が原因しているらしい。医師に求められるものは、肉体的にも精神的にも弱い立場の人達への暖い同情であろう。このような労りに徹するならば、医師のモラルの問題などはおのずから消え、感謝と信頼の関係が甦ってくるに違いない。ヒポクラテス作品に表わされている通りであろう。

この古くて新しい問題とも言える医師のモラルについては、日本のことわざにも数多く見られ、時代を越えて暮しの中に生きて来ている。諺は寸鉄人をさす風刺の鋭さと生活体験から生れた根強さを剽軽に包んでいるところになんとも言えない味をもつが、広く人々に支持され、長く世に伝えられて来たもののもつ教訓的重みをもっている。いまや若い世代の人達の間では、古い諺など失われつつあるもののようであるが、少し調べてみると医師または医術についての諺が実に多いことに驚く。これは、人々にとって医師や医術が非常に強い関心の的となって来たことの端的なあらわれではないか。

「匙の先より口の先」とか「匙加減より口加減」などと言う諺があるが、医術の貧困を口先でごまかすことである。「医者・芸者」のような辛辣なものとともに、知識も技術も高い良心的な医師にとっては、極めて腹立たしいことであろう。もし、口先だけ上手な医者が繁盛するとすれば、患者の無知もさることながら、その上にあぐらをかいて儲けに走る非道徳性に、より問題がある。「籔医者の玄関」は立派な玄関、つまり中身より外見で信用を得ようとする籔医者を皮肉っているが、医者に限らずこのような贋ものは世間に意外に多いのではないか。「流行れば医者」などと、患者が多ければ医者ほど儲かる職業はないように考えられているが、医が真に仁術であるならば、このような諺は当てはまらない。

医師は、難病を癒し患者の健康が立ち直った時、何ものにも代え難い満足と職業的誇りを感じると言う。患者の幸せは言うまでもない。医師の自信と患者の信頼とが相俟ってはじめて成ることであろう。「医を信ぜざれば病癒えず」は、医師と患者の信頼関係の大切さを表わしていて、患者への戒めだけのように思いたくない。

（生物学　教授）

Y 氏の場合

清水哲也

日頃、畏敬してやまない産科医Y氏は、新聞社からの「先生、未熟児網膜症で訴えられました、ご感想は？」という電話を聞いても、冷徹で鳴るこの先輩には、特別の感慨さえもなかった。唯、どういう訳か「この、いたいけな未熟児の生命だけは救わなければ」と、助産婦や看護婦を叱咤激励して、2晩続きの完全な徹夜のあと新生児室のガラス窓越しに眺めた、あけがたの空の色だけが、妙に生々しく想い出されただけであった。いくら妊娠中毒症には、食事療法が大切であることを、口をすっぱくして説明しても、ガムをくしゃくしゃやりながら、さっぱり耳を傾けようとしない患者のA子。「あなたの足の浮腫は、妊娠中毒症の症状の一つなんだから、水分と塩分の制限をしなさい」と懸命の食事指導にもかゝわらず、症状の改善をみないA子に、Y氏はたずねた。「水は制限しているの？」。「えゝ、先生は水がいけないというもんだから、ジュースのんでいる」。症状は進行して、蛋白尿の出現と血圧の上昇、いわゆる晩期妊娠中毒症のTriasは出揃ってしまった。そんなある日、A子は妊娠8カ月で、早産未熟児を娩出した。呱々の声も弱々しく、たちまち全身に著明なチアノーゼが出現する。この極小未熟児は、個人病院としては当時、珍らしい最新鋭の電子反比例制御方式の保育器に収容され、幾度となく襲ってくる「呼吸停止」に対処して、Y氏の病院の全ての看護スタッフもまた、Y氏に協力して必死の努力を払った。「先生、孫の生命だけは、なんとしてでも助けて下さい」A子の母親は新生児室のガラス窓越しに見える、保育器内の、紫色になっている孫の姿を、くいいるように見詰めながら、Y氏に手を合わせていた。そんなA子の母親の姿を見るにつけ、Y氏は小柄ながら、精悍な体全体にファイトをみなぎらせていた。「よし、きっとこの子の生命だけは救ってあげよう」と。――新聞社の電話に「いや、特別の感想といったものはありませんよ」。――未熟児網膜症の原因について説明しようとも思ったが、日頃、緘黙なY氏にとっては、そのような応対は、ものういことでもあるし、何よりも待合室にいる患者をこれ以上待たせるのが気になって、受話器を置いた。新聞は朝刊社会面のトップ記事にして、大きく報じていた。そして、この記事の末尾に、未熟児網膜症とは、保育器内の酸素の流し過ぎによる新生児の視力障害で、失明に至ることがあるという、どこかの百科辞典より転記したとしか思えない数行の解説を付記していた。こゝにマスコミの恐しさがある。今日、未熟児網膜症の原因を10人の市民に問いかけたら、10人が10人、保育器内の酸素の与えすぎという答えが返ってこよう。先日もある新聞に中年の女性がこんな投書をしていた。「私は時々、新生児室のガラス窓越しに保育器を見る機会があるが、今までは、赤ちゃんの生命を救ってくれる有難い器械と思ってみていたが、未熟児網膜症の記事を読んで以来、あの箱が赤ちゃんの眼を奪う恐ろしい器械かと見るのも嫌になりました」と。誤解もこゝまでくれば、もはや説明する元気もなくなってこようというもの。未熟児網膜症の真の原因は、酸素ではなくて、網膜それ自体の未熟性にあることは、今日、医学の常識である。胎児の網膜周辺部の毛細血管は、胎生8カ月より発育をはじめ10カ月に至っておわる。したがって「胎内」という安定した環境下で整然と発育すべきものが、早産によって、突然不安定な「胎外」環境に置かれるために、網膜血管は乱脈な発育をはじめ、これが刺激となって網膜に瘢痕性の変化がおこり、眼底部分より剝離する。この場合、確かに酸素は本症発症の誘因としての意味合いはある。それなら酸素の投与などやめてしまえという発想もあろう。しかし呼吸機能の未熟な児への酸素投与を中止すれば、これは未熟児の死亡か脳性マヒに連る。事実、米国では一時期、全米眼科学会の声明によって、産科医や小児科医は酸素の投与を制限した。確かに未熟児網膜症は減少した。しかし児の死亡率と脳性マヒの急増を来たし、この声明は撤回された。酸素の必要なことはわかったが、適正な酸素濃度というものがあるだろうという問題提起もあろう。適正な酸素濃度は、保育器内の濃度規正だけでは不充分で、児の股動脈より動脈血を頻回に穿刺採血して酸素分圧を測定しながら、この測定値を酸素流量にフイードバックしない限りは、適正な保育器内濃度は維持できない。測定の回数は、未熟児が保育器内に収容されてから、退院まで30回は必要で、このため貧血に陥り、輸血をくりかえしながらの動脈採血ということになる。これはまさに視力の保全と生命の維持の何れをとるかというギリギリの、いわば「医療の原点」に触れる問題でもある。「Y氏の場合」、今日もまた深夜の分娩室を額に汗して走りまわっていることであろう。ちなみに裁判用語ではY氏は「被告人」と呼稱される。

（産婦人科学講座　教授）

旭川医科大学談話会

本学教官の専門分野における研究発表を通して教官、学生及び関係機関の交流をはかることを目的として発足した「旭川医科大学談話会」は、昭和49年2月の第1回談話会以来、着実にその歩みを続け、本年10月で第25回を迎えます。本年度も森、吉岡両教授を幹事として下記のとおり開催を予定していますので学生諸君も多数参集ください。

なお第21回から第24回までの談話会は次のとおり行われました。

（幹事）

第21回　5月25日(火)司会　武部和夫(内科学第二講座)

(1)「脊髄傷害後に生ずる膝蓋腱反射亢進の実験的研究」　助教授（生理学第二講座）　青木　藩

(2)「オンコセルカ症—ガーナでの観察を中心として—」　教　授（眼科学講座）　保坂明郎

第22回　6月8日(火)司会　保坂明郎（眼科学講座）

(1)「素粒子反応と内部構造」
講　師（物理学）　晴山雅寛

(2)「ストレス潰瘍をめぐって」
教　授（内科学第三講座）　並木正義

第23回　7月6日(火)司会　高杉佑一(内科学第三講座)

(1)「松果体のグリコゲンに関する実験形態学的研究—時間生物学的観点から」
助教授（解剖学第二講座）　加地　隆

(2)「四国における肺吸虫症のX線像」
教　授（放射線医学講座）　天羽一夫

第24回　9月7日(火)司会　天羽一夫（放射線医学講座）

(1)「新強心物質 Anthopleurin　—A（AP—A）の薬理学的特性について」
助教授（薬理学講座）　泉　堯

(2)「精神鑑定の経験から」
教　授（精神医学講座）　森田昭之助

昭和51年度旭川医科大学談話会予定表

開催月日	話題	提供者	司会者
10月5日(火)	小川秀道（麻）	片桐　一（病二）	森田昭之助
11月9日(火)	大河原章（皮）	平塚寿章（化）	小川秀道
12月7日(火)	高杉佑一（内三）	水野文雄（細）	大河原章
1月11日(火)	宮岸　勉（精）	戸松良一（英）	高杉佑一
2月1日(火)	久保良彦（外一）	土井陸雄（公）	宮岸　勉

規程の改正について

昭和51年4月1日付けで学則の一部を改正しました。改正の内容は、検定料、入学料及び授業料の額及び徴収方法等を、学則に定めるもののほか、文部省令の定めるところにゆだねることにしたこと及び授業科目を変更したことです。

なお、学則の一部を改正する規程は、次のとおりです。

（庶務課）

旭川医科大学学則の一部を改正する規程

旭川医科大学学則（昭和48年旭医大達第1号）の一部を次のように改正する。

第27条中「検定料として 7,500円」を「検定料」に改める。

第28条第1項を削り、同条第2項中「前項に規定する」を削り、同項を同条第1項とする。

第29条第1項を削り、同条第2項中「前項に規定する」を削り、同項を同条第1項とする。

第34条の次に次の1条を加える。

（検定料、入学料及び授業料の額及び徴収方法等）

第34条の2　検定料、入学料及び授業料の額及び徴収方法等は、この学則に定めるもののほか、国立の学校における授業料その他の費用に関する省令（昭和36年文部省令第9号）の定めるところによる。

別表第1中「

特別講義		4		4

」を

「

特別講義				
論理学		2		2
言　語		2		2
文学講読		2		2
史料講読		2		2

」に、

「

英語	4	4		8

」を

「

英語Ⅰ	4			4
英語Ⅱ		4		4

」に、

「

ドイツ語	4	4		8

」を

「

ドイツ語Ⅰ	4			4
ドイツ語		4		4

」に改める。

別表第2中「解剖学」を「解剖学第1 解剖学第2」に、

「生理学」を「生理学第1 生理学第2」に、

「病理学」を「病理学第1 病理学第2」に、

「内科学」を「内科学第1 内科学第2 内科学第3」に、

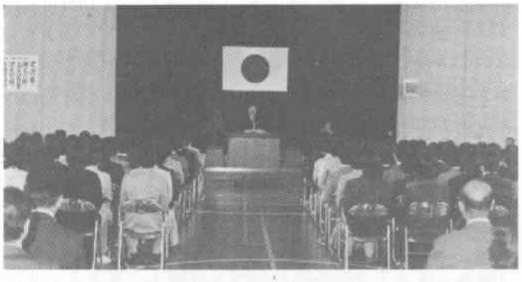
「外科学」を「外科学第1 外科学第2」に改める。

附　則

この規程は、昭和51年4月1日から施行する。

入学式挙行

昭和51年度入学式は、去る4月16日（金）午前11時から本学体育館で挙行されました。式典では学長から「大学はその時代と社会の要請によって設置されるものであり、従って大学では知的探究を行うとともに勝れた専門家を育成して社会に送り出すことも重要な使命である。医学は実践の学であり、諸君は将来立派な医師として社会に貢献できるよう努力し、先輩と力を合わせて良き伝統を形成してほしい」旨、訓示があり、参列した新入生はじめ父兄、教職員約250名は本学の完成にむけて決意を新たにしていました。（学生課）



新入生歓迎会

第4回新入生歓迎会は、4月18日（日）午後6時から道北経済センターで新入生82名をはじめ、第2学年以上の学生151名、学長はじめ教官22名の参加を得て開催されました。歓迎会ではテーブル毎に、花リボンを胸につけた新入生を囲んで談笑が行われ、また飛行船及びチェリーハーツのバンド演奏が雰囲気を盛り上げ、3時間余に及んだ歓迎会はなごやかなうちに終了しました。

（学生課）

短信

✣ サッカー・ラグビー場の使用について ✣

サッカー・ラグビー場にある6ヵ所のフラッグポストについて、一部競技に支障があるとの申し出があったため、大学では応急措置として人工芝を張りましたが、人工芝は釘で固定されているため、使用にあたってはあらかじめ釘の飛び出し等を点検し、怪我のないよう留意してください。

（学生課）

納骨堂入魂式

解剖学実習のため献体を受けた遺骨で、合葬を望んだり身寄りのない篤志家の遺骨を祀る本学の納骨堂が、近文墓地内にでき、去る6月15日（火）午前10時30分から入魂式が行われました。

式には学長はじめ教職員及び白菊会関係者並びに市関係者ら30名が出席し、読経の流れる中、納骨される20体の遺骨に焼香し、医学教育によせられた故人の遺徳を偲び冥福を祈念しました。

納骨堂は近文台地中腹に位置し白亜のコンクリート製で高さは5.6メートルあり正面の御影石には、学長が揮毫した「霊座」の文字が刻まれています。

学生諸君も折にふれて詣でてください。

（学生課）

激戦！本年度入学試験

昭和51年度の入学試験は、去る3月23日（火）、24日（水）の両日、本学と旭川東高等学校とを試験場として実施されました。本年度の志願者数、受験者数は開学以来の激増ぶりで、特に志願者数では国立大学2期校のうち第2位にランクされたため本学では一時、試験場の確保を心配しましたが、幸い予想より受験者数が下回ったため2試験場で実施することができました。

昭和52年度の入学試験志願者・受験者数も本年度程度になるものと予測されています。

なお、昭和51年度の入学試験受験者数等は、次のとおりです。

（学生課）

区分／出身別	志願者	受験者	合格者	入学者
道内	1349(128)	938(85)	66(1)	65(1)
道外	1739(131)	933(70)	37(2)	35(2)
計	3088(259)	1871(155)	103(3)	100(3)

（　）は女子で内数

研究室紹介

■生化学講座■

山内　卓

当研究室では生物の示す合目的性や生体における高次の生命現象を司るいわゆる〝代謝調節機構〟の研究を行ってきており、藤沢教授の得意の分野である酸素添加酵素の研究を発展させ分子レベルで解析しようという目的の下に次のようなアプローチを試みている。

(1)酵素の反応機構の研究：酸素添加酵素は生体内に広く存在し生体にとって重要な物質の生合成や代謝に関与する一群の酵素であり、その反応機構を明らかにする。精製酵素標品を大量に得ることができるバクテリアを材料とし、主として次の4種の酵素を用いる。安息香酸水酸化酵素、アントラニル酸水酸化酵素、プロトカテキン酸3,4－二原子酸素添加酵素、フェニルアラニン水酸化酵素について酸素の活性化と電子の流れ、補酵素の役割等に注目して研究している。またこれらの酵素の中にはフタル酸エステルや化学発癌物質の代謝に関与すると考えられるものも含まれることから技術面での応用も期待される。中田助手、山口助手が担当し、これらの研究は学会でも注目されている。学生の吉川潮、藤本武利、山本哲諸君も加わっている。

(2)カテコールアミン生合成の調節：カテコールアミン合成に関与する酵素群の活性が生理的条件で変動することが知られており、このうちチロシン水酸化酵素とドーパミン－β－水酸化酵素の変動が大きく重要性が高い。これらは酸素添加酵素であり、これらの酵素活性の調節及び酵素の生合成や分解の調節を明らかにする。ウシ、ラットの副腎髄質を材料とし、さらに実験系の単純化のために組織培養も試みている。また高血圧症などの循環器疾患とカテコールアミンの関係を調べるため自然発症高血圧ラットの実験も計画中である。奥野技官と私が担当し、学生の東寛君が細胞培養を行っている。

(3)細胞増殖機構の理解：ポリアミンは細胞増殖と密接に関係しておりその生合成はオルニチン脱炭酸酵素により調節されている。この酵素は細胞増殖の初期に活性が上昇する。ラット再生肝を用いこの酵素誘導と細胞増殖の制御機構を調べる。藤沢教授自らＲＩ木谷教務職員を指導している。

整形外科安部先生が骨のムコ多糖の生化学的研究をしている。

藤沢教授は勉強熱心で一日中教授室で本を読み知識を蓄えこれらのテーマに関し討論し適切な助言を与えてくれるが、興味の範囲が広がりすぎテーマが多くなり我々スタッフとしては忙しい。その他の研究活動としては週2回のセミナーを行い1回は文献紹介で他は研究報告である。我々の研究結果が次の若い生化学者によってより高次の生命現象を解き明す手がかりのひとつになることができればと思いつつ毎日実験に励んでいる次第である。

（生化学講座　助教授）

研究室印象記

山本　哲

6月14日の誕生日、それまで「俺はまだ30代や!!まだ若いんやで!!」と、さかんに30代を強調していたのに、急にそれを口にしなくなってしまった藤沢教授、それはもう生きがいを失なってしまったかのような顔をしていたものです。それでも教室員の平均年齢（教授も含む）が、34～35才という非常に若い教室です。

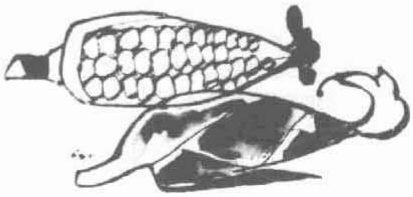
研究テーマは「オキシゲナーゼ」ですが、現在は「カテコールアミン合成系の律速酵素」がメインのようです。

この教室の特徴を紹介するとしたら、まず第1に、先にも書いたように若い事です。生化学という分野は、アイデアを中心としており、あとは実験ができさえすればよいのですから、自由な発想と十分な体力のある方が有利と言えます。第2番目には、この教室員の出身地のほとんどが関西で、教室内の共通語が関西弁である事です。

北海道にして北海道にあらず、実に異様な雰囲気ですがこれがかえって親しみやすさを感じさせるから不思議です。これに加え、変な学生が教室内をウロチョロして、ますますややこしくしているのです。

写真からは、「学生が大きな顔をして、けしからん!!」との印象を持たれる方もおられるかもしれませんが、これは藤沢教授の陰謀によるもので、誤解しないでいただきたい。確かに我々学生が図々しく居座り、あれこれくだらない議論をして、奥野さんに、「下剋上や!!」（自分の事は棚に上げて）とまで言われるほどなのではありますが、写真では、その下剋上の張本人であり、Royal〝We〟をお使いになる、生化学教室高官K君、及びF君を欠き、正しい教室の姿を現わしているとは言えないのであります。

（第4学年　学生）



躍　　動

第2回 医大祭行わる

第2回医大祭は「躍動－解き放て、若き力を！」をテーマに去る6月17日（木）から6月20日（日）まで4日間にわたり開催された。

今回の医大祭では昨年度の実行委員会の総括を受け、学生自身が大学祭を享受することを中心に据え、市民に門戸を開く企画との調和について5月から検討が行われた。その結果、広く市民に大学祭実施をアピールする仮装行列、前夜祭は6月17日（木）に市内中心部で行い、6月19日（土）、6月20日（日）を市民開放日とし他は学内で学生自身が享受できる企画を実施することとなった。

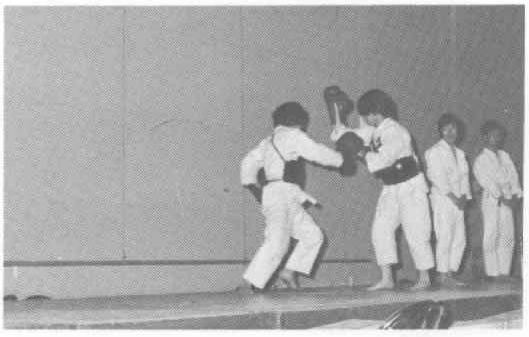
およそ「祭り」は日常生活の単なる延長ではなく創造的なエネルギーの爆発的燃焼の過程でもあるが、共同社会の祭りとしての医大祭はこれを顕在化させ医学展、座談会、演芸会等に参加した学生諸君にとって創造的な活動に従事し、協同することの意義を再認識する契機ともなったようである。

6月17日（木）快晴の旭川。決死の創作によるマンモス、赤々と口を開け野獣の本性をさらけ出す熊、開拓者精神を象徴する幌馬車の張子と共に、マリリン・モンローやバトンガール（？）もねり歩き買物公園の喧噪は市民の笑声と歓声で加重するばかり。前夜祭は夕闇に包まれた常磐公園。ラブラブボートのシルエットも闇に溶け、エレキサウンドが湖面に響く頃にはフエステバルは最高潮。

6月18日（金）演芸会。ひたすら歌う合唱団、蹴り、突き、受けの型から組手まで少林寺拳法の初演武、時事問題に題材を得た演劇、そしてミュージカル。各クラスの全力投球に学生、教職員から惜しみない拍手。

午後からはアンケートを基にした医学教育討論会。学生諸君の眼を通して見た、一般教育の位置づけ、実習内容等、基礎医学教育（解剖学・生理学・生化学）の実習時間数、スタッフ数、更に学生自身の授業に臨む態度、試験制度等についてを資料にまとめてのディスカッション。そして映画会。大恐慌に話題をとったスタインベック原作「怒りの葡萄」。

6月19日（土）好天に恵まれる。市民の出足もよく、軽食、焼鳥、スナックの各模擬店、古本市はじめお茶会将棋、囲碁、写真展示等のクラス・サークル企画は盛況の一語に尽きる。中でも「高血圧と脳卒中」「神経」「心臓」の医学展示は、X線写真や標本の配列にも苦心の跡が見られ資料も各講座や病院の協力を得たものだけにわか



りやすく、多くの市民が熱心な説明に耳を傾けている姿が目立つ。これら医学展では簡単な検査も行えるとあって一時は行列ができるほどの混みよう。「健康」に対する関心の深さと本学によせる市民の期待の大きさを如実にあらわしているようである。

午後4時からは、夜は無医地区といわれる都市の医療について、旭川はじめ各都市の現状と、その改善方向について現場の医師を招聘して座談会。夜間・救急医療についての各医療団体の構想にも話が及び社会の中の医療について考える。

6月20日（日）医大祭の最終日とあって人出も前日に増して多く両日で約3400名の市民の観覧を得る。同日は清水、小野寺両教授の医学講演会が行われ、サークル企画でも寄席や自主制作映画上映も加わりなごやかで多彩な医大祭を一層盛り上げる。

円陣を組んで夜空をこがすファイヤーストームを囲み自身の情熱にも以た炎を見つめて4日間を振り返る学生諸君の胸に、確かな何物かを残しながら第2回医大祭は成功裡にその幕を閉じた。

（学生課）

バレーボール部全道制覇
第23回 北海道地区大学体育大会

第23回北海道地区大学体育大会は、帯広畜産大学が当番校となり、去る7月9日（土）から7月12日（月）までの3日間にわたり、全道42大学から約3500名の選手が参加して帯広市内各競技場で行われました。

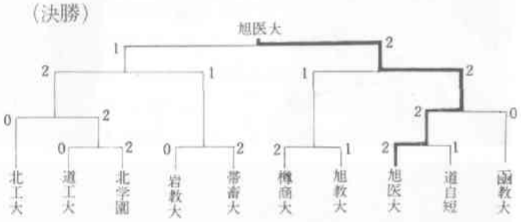
本学からは9種目に合計108名が参加しサッカー部がベスト8に進出するなど各種目に善戦しましたが、特にバレーボール部は決勝トーナメントに進出し、道自短・函教大・樽商大・北学園を連破、部結成3年目で全道制覇を成し遂げました。

参加各種目の成績は次のとおりです。

バレーボール

（予選）北工大2—0旭医大　旭医大2—0駒沢大

（決勝）



サッカー

二回戦　旭医大3—3樽商大（抽選）

三回戦　旭教大4—1旭医大

陸上競技

男子円盤投　4位　新ケ江正　30m30

準硬式野球

一回戦

北学園	2	0	2	5	1	2	8	20
旭医大	2	0	7	0	0	0	0	9

（7回コールド）

優勝　北大　2位　岩教大

バスケットボール

（予選）

旭医大59 $\left(\frac{27}{32}—\frac{25}{25}\right)$ 50道都短

帯畜大117 $\left(\frac{60}{57}—\frac{27}{16}\right)$ 43旭医大

決勝トーナメント進出帯畜大　優勝東海大　2位帯畜大

卓球

（予選）旭医大3—2札医大　北工大3—2旭医大

決勝トーナメント進出北工大　優勝函教大　2位北学園

バドミントン

一回戦　北星園3—1旭医大　優勝北大　2位北学園

剣道

（予選）旭医大 $\frac{4}{⑨}—\frac{3}{⑦}$ 北工大　酪農大 $\frac{4}{⑧}—\frac{1}{⑤}$ 旭医大

決勝トーナメント進出酪農大　優勝帯畜大　2位釧教大
弓道　優勝札商大　33中　2位北学園　11位旭医大
なお男子総合では参加30大学中、第10位でした。

（学生課）

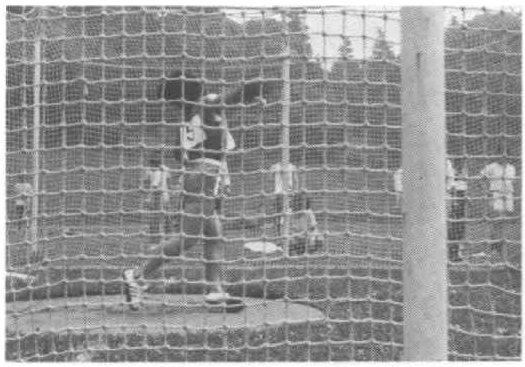
第19回 東日本医科学生総合体育大会

第19回東日本医科学生体育大会夏季大会は、梅雨明け宣言前日の7月20日（火）から競技種目のトップを切って硬式庭球他1種目が開催されました。当日、横浜は雨模様で横浜スポーツマンクラブでの硬式庭球は中止されましたが、同日午後5時から今回の主管校である慶応義塾大学の医学部北里講堂で開会式が行われました。

約80名の理事、評議委員及び学生が開会式に参列し、大会長ら運営責任者から「18種目に33大学、約8,000名の選手の参加を得た今回の東医体を、参加者が社会的トレーニングを受け、日頃錬磨した技とスポーツマンシップを充分に発揮し、友情を培い、親睦を深める、例年と同じような実りある大会として成功させたい」旨挨拶が行われた後、優勝旗・杯が返還され、7月31日(土)まで12日間にわたる長く暑い戦いの幕が切って落されました。

炎天下、本学からは陸上競技、準硬式野球、硬式庭球サッカー、バスケットボール、バレーボール、卓球、剣道、柔道、弓道、バドミントン、空手道の12種目に144名が参加しました。

なかでもバレーボール部は予選リーグで独協医科大学と対戦して15－6、15－6と2セットを連取し、続く東京医科歯科大学に対しても15－5、15－7とストレート勝ちを収め、決勝リーグに進出し、群馬大学に次ぐ成績で準優勝し、本学の体育サークルで初めて全医体に駒を進めました。全医体でも初出場ながら善戦し群馬大学、金沢大学に次ぎ3位の座を獲得する快挙をなしとげました。なお開会式に先立って7月19日(月)に評議委員会が開催され、防衛医科大学校の東医体加盟について審議しましたが、加盟申請は認められませんでした。



（学生課）

東医体サッカー観戦記

山村　剛康

8月26日午前10時20分、日吉サッカー場、我が旭医サッカー部の東医体での初試合が始まった。相手は慶応、強敵である。旭医イレブンは「いいか、絶対勝つゾ！」の掛け声を残し、グラウンドに陣形を整えた。審判の笛が鳴り、キックオフ。これから、敵、味方、そして応援している者達にさまざまな75分が始まるのだ。ボールはウイングのM君に渡り、一気に敵のゴール近くまで攻めあげた。試合の展開は旭医ペースとなり、11人が素晴らしい連係を見せ、ボールは8割方、旭医にコントロールされている。見学に来ていた他大学学生の声、「慶応の相手どこだ？強いなー」「旭川か、初出場なのにやるなー」と言っている間に、センターフオワードT君が前半7分、1点を入れた。また学生の声、「旭川、決勝まで行くんじゃないか」。見ていた誰もがそう感じ、それを疑わなかった。昨年まで現役選手だった公衆衛生のK先生も「これは勝つよ、東医体新聞に載るよ」。しかし、戦局は徐々に変わりつつあった。サッカーは、ただでさえ非常にハードなスポーツで、涼しい時期でさえ大変なスタミナを要求される。それを真夏の東京でやるのだから、これは選手にとって一種の地獄である。この日、気温は既に33度を越していた。東医体で勝ち抜くためには、単に強いBrainとBodyの他にviolent　なまでの根性がそれらのBalance を支えていなければならない。サッカーの技術と同時に、こういうものもチームの「実力」なのである。そしてサッカーの試合では、大体、実力通りの勝敗結果となる。酷暑に慣れていない旭医チームの弱さを巧みについた慶応は確実に逆襲してきた。そして、結局1対7で負けてしまった。技術も根性も、そして結局はチームとしての実力も毎日の練習の中でのみ養われていくものである。強くなるための練習は厳しいし、本当に辛いものである。しかし、その中にこそスポーツが好きでサッカーが好きな者の喜びや楽しみがあると思う。厳しい練習のあと、「きょうはキツかったなー」という言葉の中に、ある喜びを感じる時、我が旭川医大サッカー部は、本当に決勝まで進み、そして優勝できるチームとして発展していっているのではないだろうか。フレー！フレー！旭医サッカー部。

（生理学第二講座　助手）

バレーボール部レポート

浜崎　卓

7月10日、11日、12日の3日間、帯広で開かれた地区体で、予選から苦戦の連続の末、決勝で北海学園大学を13－15、15－10、15－8のセットカウント2対1で破り優勝杯を手にすることができた。今大会は、1つ図抜けた存在である北大、札大が欠場し、それに続く第2グループは、本学を含めて混戦であり、連盟でも優勝候補に挙げていたようだが、チャンスを確実にものにでき、望外の喜びであった。我々は試合前になると実習などで、グループに大きな負担をかけており、こうした栄誉に浴せるのも、一重に、クラスメートの理解のお蔭であり、この機会に感謝の意を表わしたい。

次に「おめでとう」とも「残念だったね」ともいわれる東医体、全医体の報告。7月21日から24日まで、駒沢球技場で行われた東医体は、準決勝の自治医大戦を2対1でせり勝ち、決勝の対群馬大戦では1対2でせり合ったが敗れ、準優勝に終りました。今後しばらくは旭医、群馬、自治の3強の争いが続く模様。東医体、西医体の上位3チームずつ集まった全医体は8月2日、堺の臨海スポーツセンターで行われ、準決勝で西の1位金沢大に1対2で負け、3位決定戦で自治に2対0で勝ち3位でした。東医体、全医体は暑さをどう克服するかが課題です。

部創立以来の公式戦通算成績は40勝11敗で間に11連勝1回10連勝2回をはさみ、道内のリーグ戦は16連勝中で優勝というものは5回経験しました。ある時は1学年だけ、あるいは1、2学年だけ、そして今年も3学年までで、戦ってこの成績を残してきました。

3年前、バレー部を結成して永山のパルプ工場の体育館にかよっていた頃胸にあったのは、2期生として何でも自分達で創ってゆくんだという気負いと、親身に世話を焼いてくれていた学生課の人達の顔を見るにつけ意を新たにした新設の旭川医大の名を高めるという思いでした。それが有望な新人が入って、荒けずりながら魅力あるチームになり、鍛えれば鍛える程強くなって今では行ける所まで行ってみようという気持です。

近頃は優勝のかかった大事な試合が続き、いずれも接戦であり、試合中は辛く苦しいばかり。練習も前進、飛躍の為、厳に妥協を排してゆかねばならず、自分を思い切りぶつけるだけです。この苦しさがいつか楽しい思い出となる日を心待ちにして。

私は中学、高校、大学とクラブ活動を通じて多くの友人を得てきました。とことんやって苦楽を共にすることで心の繋がりが生まれます。また同じチームと二度三度と戦うことによって冗談の言い合える仲になるのは良いものです。東医体、全医体では日本中の同じ志の知己が得られます。

以下は私の個人的独善的意見で恥しいのですが、読み飛ばしていただければ幸いです。「あんな新設の医大」とどのチームも思うのです。そこで謙虚な言葉など何のたしにもならず、誰も聞いてはくれないし、自分達も本気で勝とうという気力など出てきません。それでは勝負は、やる前から決ったも同然です。ダメだったら素直にハジをかけばよい。男は生きているうちに何ができるかだと思っています。そしてグループは、どういう人が集っているかです。あなたも優れた人を集めて、何か始めてみませんか。他の人の出来ない事が可能かも。

（第3学年　学生）

石狩川くだり

町田光司

石狩川を下ってみたい。それは長年の夢だった。

意気投合した5人。町田隊長、横山副隊長、計良統制部長、佐々木親衛隊長、大宮食料長と、平の隊員は1名もいないという世にも不思議なアドベンチャークラブの結成までに、さほど時間はかからなかった。万一の事故に備え、顧問には整形外科の原田先生をお願いし、又石狩川水銀汚染調査には『元北大ボート部の雄』公衆衛生の土井先生の御指導を仰いで、万全の体制である。

7月16日、曇り後、土砂降りの雨。石狩川汚染の元凶である牛朱別川を2台のゴムボートは増水の瀬に乗って放浪を開始。巨大な排水口からは、あの悪臭を放つこげ茶色の水が、渦を巻いて襲来する。泡だらけの濁流の中でボートは堂々めぐり。

一難去ってまた一難。2台をつなぐロープが橋桁にひっかかり、我々は、怪しく生暖かい泡だらけの水に漬かり、転覆の恐怖と闘わねばならなかった。

7月18日、石狩川本流ピップ橋を出発したが、上流は水が無く、炎天下ボートを引く作業は早くも座折感に押しつぶされはじめていた。

7月19日、快晴の旭橋グランド。NHK報道陣、少林寺拳法部有志、ならびに青森県人会の盛大な見送りの中、カメラマンがボートに分乗し、旭川に別れを告げた。思えば、この先何があるかわからぬ旅である。

神居古潭絶壁の急流をちゃんわちょんわと越え、逆流する川を決死の人間船外機でよじ登り、連日30度を越える酷暑もなんのその毎時2kmで海をめざした。

夜は蚊の大歓迎。隊員の顔は異様に腫大し、その顔貌は

バーキット腫瘍を彷彿とさせた。

かもめが海の近さを知らせてくれた日、もはや川幅は100mを越えていた。石狩川の水は限りなく不透明に近い茶色で、絶えずパルプの排液の臭いが鼻をついた。

100kmも矯正されたこの川は、道開発の排水口としての大役を律儀に努め、膨大な量の汚水を満つることの無い海へと運んでいる。この中で水銀による環境汚染は着実に進行しているのである。もはや鮭の帰ってこない川。文明の犠牲になった川。いったいこの川は、どのくらい永い間、生命の営みを見つめ続けてきたのだろうか。

旭川「よし乃」の皆様、奈井江の大野家、岩見沢の前田家、札幌の佐々木家の皆様の暖かい御支援にささえられ、27日、全員五体満足で海に到着した。12日間 150kmの決死行である。

その日、巷は田中逮補に揺れていた。しかし、そんな事とは関係なく、石狩川は満つることのない海へ汚水を黙々と運んでいた。

そして、灼熱の太陽に照らされて、眼前の海は眩しいほど青く、徐々にその輝きを増し始めていた。

（第4学年　学生）

各種奨学金について

本学には、日本育英会奨学制度のほかに各種奨学制度の適用があり、逐年その奨学生数も増加しています。募集等については、その都度掲示で通知します。

なお、奨学金の詳細については学生課厚生係までおいでください。

（学生課）

各種奨学生数

（昭和51年9月現在）

名称			貸与月額	奨学生数 第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計
日本育英会奨学金	一般貸与		6,000 (11,000)	11	16	11	14	52
	特別貸与	自宅通学	8,000 (13,000)		1	2	1	4
		自宅外通学	12,000 (18,000)	12	11	12	16	51
計				23	28	25	31	107
北海道医学及び歯学修学資金			50,000	3	3	13	13	32
長野県医学生修学資金			40,000				2	2
東京都公衆衛生修学資金			30,000				1	1
川崎市公衆衛生修学資金			30,000		1			1
青森県僻地勤務医師等確保修学資金			40,000				1	1
兵庫県僻地勤務医師等確保修学資金			40,000			1		1
秋田県公的医療機関振興会医学生奨学資金			30,000				1	1
北海道厚生農業協同組合連合会医学修学資金			50,000		1	3	3	7
財団法人日本交通文化協会(英才教育事業部)			10,000				1	1
網走支庁母子奨学資金			8,000				1	1
紋別市奨学資金			8,000				1	1
津別町奨学資金			10,000				1	1
知内町奨学資金			6,000			1		1
旭川市奨学資金			10,000		1			1
深川市奨学資金			15,000		1			1
財団法人登別育英会			8,000		1			1
南条育英会			10,000	1				1
財団法人交通遺児育英会			20,000	1				1
財団法人杉村先生記念財団奨学金			14,000	1				1
財団法人小川育英会			25,000				1	1
明治製菓育英基金奨学金			15,000	1				1
計				7	8	18	26	59
合計（延数による）				30	36	43	57	166
在籍学生数				106	99	96	91	392

※　日本育英会奨学金貸与月額の（　）内は第1学年の貸与月額である。

学生団体について

本学では現在、体育系23、文化系20の学生団体が活発に活動を行っています。

体育系、文化系のサークル名及び責任者等は次のとおりです。

（学生課）

昭和51年度　学生団体一覧

（昭和51年7月1日現在）

	体育系学生団体	文化系学生団体	合計
団体数	23	20	43
加入学生数	373	263	636

（体育系）

体育系団体名	会員数	責任者	顧問教官
ラグビーフットボール部	23	横山　良伸	鮫島　夏樹
硬式庭球部	34	鈴木　望	松嶋　少二
準硬式野球部	20	落合　聖二	坂井　英一
バレーボール部	12	浜崎　卓	倉橋　昌司
バドミントン部	22	楠　祐一	晴山　雅寛
徒歩旅行の会	14	二木　源	笹森　秀雄
陸上競技クラブ	10	高木　勇	美甘　和哉
空手部	10	猪俣　光孝	佐藤　利宏
山岳部	15	石川　直	八幡　剛浩
卓球部	14	西野　茂夫	岩渕　次郎
弓道部	20	大崎　能伸	黒島　晨汎
剣道部	12	道薮　裕	原田　一典
洋弓クラブ	12	江尻　倫昭	丸子　基夫
柔道部	12	石川　裕司	青木　藩
サッカー部	18	堀毛　清史	山村　剛浩
バスケットボール部	17	宮津　誠	平塚　寿章
スキー部	22	石丸　晶	東　匡伸
ボデイビルデイング部	20	豊川　好男	戸松　良一
ゴルフ部	25	岡本　洋	原田　一典
少林寺拳法部	11	船井　哲雄	武部　和夫
ボーリング同好会	14	森川　秋月	上口勇次郎
自動車部	11	三上　淳一	晴山　雅寛
アドベンチヤークラブ	5	町田　光司	原田　吉雄

（文化系）

団体名	会員数	責任者	顧問教官
写真クラブ	10	鈴木　伸治	星野　了介
軽音楽クラブ	11	安在　貞祐	岡田　雅
音楽集団飛行船	18	長谷部直幸	市原　和夫
医療研究会	33	足立ひとみ	鮫島　夏樹
美術部	8	長南　典秀	原田　一典
語学研究会	20	古川　英樹	戸松　良一
落語研究会	14	石橋　隆治	仲西　忠之
探険郎バクの会	10	松浦　順	笹森　秀雄
生物クラブ	14	加藤　法導	美甘　和哉
プロメ会	7	上田　譲二	青木　藩
茶道部	10	吉田千登美	吉田　征子
天文クラブ	20	品田　雅博	今川　民雄
スペイン語研究会	10	日下部芳志	八幡　剛浩
うたごえサークル「ぽうふら」	12	高木　勇	安孫子　保
聖書を読む会	5	今村　昌幹	黒田　一秀
棧敷文の会	19	中村　克己	岡田　雅勝
チエリーハーツクラブバンド	14	藤沢　真	高村　孝夫
宇宙物理研究会	10	藤井　宏一	河原林忠男
日本史研究会	10	坂田　宏	原田　一典
囲碁部	15	岡村　廉晴	坂井　英一

訃　報

本学参与　盛永　要氏（74歳）は、市立旭川病院において入院加療中のところ、去る8月7日（土）、胃癌のため御逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、本学参与として、高い識見と誠意をもって本学の諮問に応えられ、また、国立旭川医科大学設置協力会理事として、建設途上にある本学の整備充実に貢献されるなど本学の建設運営に尽瘁されました。更に、附属病院に欠くことのできない福利奉仕事業のために財団法人旭仁会を設立することに多大の尽力をされました。

これらの功績に対し、過日、感謝状が御霊前に贈られました。

（庶務課）

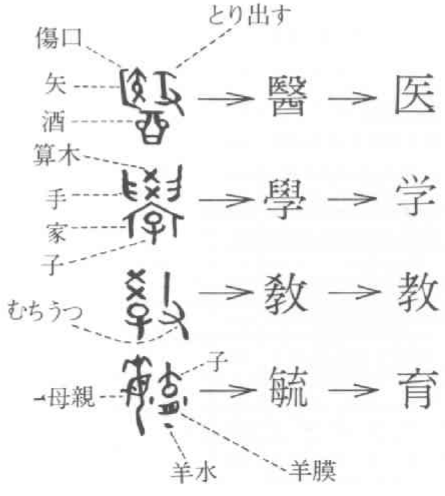
窓　外

福　山　裕　三

▲読書に疲れたときなど、頭を空虚にしてじっと漢字を見つめているときがある。こんなとき、その漢字がどうしてできたのだろうか、発生当時の文字はどうだったろうかと思いめぐらすことがある。こんなことが縁で殷・周時代の金文集をときどき眺めている。古代中国の文字は実にきれいである。そして、字を眺めているだけで古代中国人のものの見方、ものごとのとらえ方がわかるような気がする。

▲医学の医の字をみてみよう。傷口から矢をとり出して酒を注いでいる一幅の絵なのである。太古は酉を巫と書いている。みこが祈祷をして治したからであろう。学は子供に手から手へ計算を教えるところなのである。すなわち、学校そのものである。教育の教の字は、子供に計算をむちでうっておしえる絵である。教育には愛のむちが必要なのは古今東西を問わず同じだったことを示している。育は、昔は毓の字を使っていた。母親が子を産み終ったころの絵である。羊膜が破れ、羊水が流れでて正常位で無事出産したところであり、この子はやがてすくすく育っていくことであろう。現在使われている育は羊膜の破片と正常位で生まれた子供を、強調して描いてある。

▲このように医学教育という四つの漢字をじっとみつめていても、古代中国人の愛とか、慈しみとか、生の喜びなど、豊かな情緒がひしひしと身に迫ってくるのである。

（公衆衛生学講座　教授）

なお窓外カットは北海道新聞掲載